

令和5年度 特別の教育課程の実施状況等について

茨城県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
鹿嶋市立鹿島小学校（外 10 校）	鹿嶋市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等	学校関係者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等
鹿嶋市立鹿島小学校	http://www.sopia.or.jp/kasyo/wp/%e5%a4%96%e5%9b%bd%e8%aa%9e%e6%b4%bb%e5%8b%95%e3%83%bb%e5%a4%96%e5%9b%bd%e8%aa%9e%e3%81%ae%e5%ad%a6%e7%bf%92/%e9%b9%bf%e5%b3%b6%e5%b0%8f%e3%80%80r5%e7%89%b9%e5%88%a5%e3%81%ae%e6%95%99%e8%82%b2%e8%aa%b2%e7%a8%8b%e5%ae%9f%e6%96%bd%e7%8a%b6%e6%b3%81%e7%ad%89%e3%81%ab%e3%81%a4%e3%81%84%e3%81%a6-4	http://www.sopia.or.jp/kasyo/wp/%e5%a4%96%e5%9b%bd%e8%aa%9e%e6%b4%bb%e5%8b%95%e3%83%bb%e5%a4%96%e5%9b%bd%e8%aa%9e%e3%81%ae%e5%ad%a6%e7%bf%92/%e9%b9%bf%e5%b3%b6%e5%b0%8f%e3%80%80r5%e7%89%b9%e5%88%a5%e3%81%ae%e6%95%99%e8%82%b2%e8%aa%b2%e7%a8%8b%e5%ae%9f%e6%96%bd%e7%8a%b6%e6%b3%81%e7%ad%89%e3%81%ab%e3%81%a4%e3%81%84%e3%81%a6-4

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

これからの時代において必要とされるグローバルな視野を持った人材を早期から育成するため、小学校第1学年及び第2学年の生活科 20 時間を外国語活動に替えて実施する。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は常陸国一の宮鹿島神宮の門前町として栄え、発展してきた。また、2002 年には FIFA ワールドカップの会場地となり、2021 年には東京オリンピックサッカー競技が開催された。歴史的伝統とスポーツによる活力あるまちであり、「子どもが元気 香る歴史とスポーツで紡ぐまち 鹿嶋」を本市総合計画における将来像に掲げている。世界の人々とのコミュニケーションをとおして、本市の魅力の世界に発信していくことができるグローバルな人材育成をより一層推進することが、本市の発展と教育活動の充実に必要であると考え、教育課程の特別措置申請を行うこととした。

(3) 特例の適用開始日

2007年4月

2018年4月 変更

(4) 取組の期間

2030年4月まで

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- ・実施していない

<特記事項>

(1) 第1学年児童による評価

① 外国語活動の時間は、楽しいですか。			
楽しい	どちらかという と楽しい	どちらかという と楽しくない	楽しくない
86.7 %	10.7 %	1.3 %	1.3 %

② ALT と英語で話したり活動したりするのは楽しいですか。			
楽しい	どちらかという と楽しい	どちらかという と楽しくない	楽しくない
90.7 %	6.7 %	1.3 %	1.3 %

③ 英語を話せるようになりたいですか。			
話せるようになり たい	どちらかという と話せるようになり たい	どちらかという と話せるようになら なくてもよい	話せなくてもよい
86.7 %	6.7 %	5.3 %	1.3 %

④ 外国のことをもっと知りたいですか。			
知りたい	どちらかという 知りたい	あまり知りたくな い	知らなくてよい
95.9 %	2.7 %	0.0 %	1.4 %

(2) 第2学年児童による評価

① 外国語活動の時間は、楽しいですか。			
楽しい	どちらかという 楽しい	どちらかという と楽しい	楽しくない
81.9 %	12.4 %	5.7 %	0.0 %

② ALT と英語で話したり活動したりするのは楽しいですか。			
楽しい	どちらかという 楽しい	どちらかという と楽しい	楽しくない
82.9 %	15.2 %	1.9 %	0.0 %

③ 英語を話せるようになりたいですか。			
話せるようになり たい	どちらかという と話せるようになり たい	どちらかという と話せるようになら なくてもよい	話せなくてもよい
81.0 %	11.4 %	6.7 %	1.0 %

④ 外国のことをもっと知りたいですか。			
知りたい	どちらかという 知りたい	あまり知りたくな い	知らなくてよい
81.9 %	12.4 %	2.9 %	2.9 %

(3) 教職員による評価

① 第1学年からの外国語活動の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。			
思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
100.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %

② 第1学年からの外国語活動の実施は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか。			
思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
100.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %

③ 第1学年からの外国語活動の実施によって、外国の文化(生活、習慣、行事等)に対する興味・関心が高まっていると思いますか。			
思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
90.0 %	10.0 %	0.0 %	0.0 %

④ 第1学年及び第2学年からの外国語活動に期待することは何ですか。 (自由記述)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しく活動しながらその結果として基礎が養われるといいと思います。 ・ 外国の文化などに触れ、積極的にコミュニケーションを図る態度を身につけさせたい。 ・ 言語だけではなく異文化にも慣れ親しむ気持ちや外国の方に対する人権意識の芽生えを期待したい。 ・ 日本語とは違う言葉に対するハードルが低いうちにたくさん触れて楽しめる体験を積んでほしいです。 ・ 英語に慣れ親しむ学習を重視して、楽しめるものが良いと思います。 ・ 英語に苦手意識を持たず慣れ親しむこと。 ・ 外国語を話すことへの向上心が芽生えること。 ・ 日本語と英語の違いを音などを中心に楽しむこと。 ・ 母国語以外の言語の音に耳が慣れることを期待します。 ・ まちがいを恐れず、楽しく活動すること。 ・ 1年生から英語の授業があることで、リスニング力がついていていると思います。その力と英語に対して楽しく取り組めるよう、これからも継続をしてほしいです。 			

(4) 保護者による評価

① 第1学年からの外国語活動の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。			
思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
55.6 %	35.6 %	6.7 %	2.2 %

② 第1学年からの外国語活動の実施は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか。			
思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
70.0 %	24.4 %	5.6 %	0.0 %

③ 第1学年からの外国語活動の実施によって、外国の文化(生活、習慣、行事等)に対する興味・関心が高まっていると思いますか。			
思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
47.8 %	35.6 %	14.4 %	2.2 %

④ 第1学年及び第2学年からの外国語活動に期待することは何ですか。 (自由記述)			
<ul style="list-style-type: none"> ・自分を表現する手段のひとつとして外国語がなるといいと思います。 ・英語に抵抗なく学習する事ができ、身近に感じられるようになっていくと思う。 ・基本的なアルファベットの読み書きはもちろんですが、一番は楽しく学んでまずは英語を好きになってもらいたい。 ・外国の人や言葉に対する抵抗感を少しでもなくすこと。 ・外国語活動を通じて、積極性や外国の文化を少しでも学べたらよいと思います。 ・外国語に触れる時間数をとにかく増やす事。 ・低学年のうちから外国語に慣れ親しむ事は素晴らしいと思います。 ・極端なステップアップは必要ないと思うが学年が上がった分だけの勉強内容の変化は必要だと思う。 ・イントネーションなど大人になった時に身につけにくい分野の教育、簡単な日常英会話ができるような教育。 ・綺麗な英語でなくていいので、伝わる聞こえる英会話。 ・世界の多様な文化に興味をもてるような機会になること。 ・家でも英語の授業の話は出ますが、楽しいという印象のようです。楽しく少しずつ学んでいくことはとてもよいと思います。 ・聞くだけ、聞かせるだけでも、英語を毎日耳にするだけでも違ってくると思います。 			

- ・大きくなってから始めるよりも、小さいうちから英語に対して苦手意識がなくなるようになると良いなと思います。
- ・単語や発音がわからない等の理由で消極的にならないように楽しみながら活動できること。
- ・コミュニケーション能力向上や国籍を越えて繋がりたいと思う心が芽生えるのではないかと思います。
- ・言葉の壁を強く感じてしまうと関わることを諦めてしまう傾向があるので、柔軟な考えを持つ低学年のうちから外国語を学べると良いなと考えます。

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本校の学校組織目標として「表現力の向上」を掲げ、全教科で児童の思いや考えを引き出し、主体的・対話的な学びのある授業を推進してきた。低学年の外国語活動においては、児童にとって身近な内容の単語や表現を英語で学ぶことにより、多くの児童が積極的に英語で自己表現をしようとしている。

その結果、「外国語活動の授業が楽しい(どちらかという楽しいを含む)」と感じている児童は、1年生では97.4%、2年生では94.3%となった。また、「英語を話せるようになりたい(どちらかという話せるようになりたいを含む)」と思っている児童は、1年生では93.4%、2年生では92.4%となった。英語を使って自分の気持ちを表現できるようになりたいと望む児童が多いことが分かる。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

昨年度の課題は、「話す力」の向上であった。話す力の向上のために、「Small talk」の活動で日常的に、自分の本当の気持ちについて既習表現を用いながら伝え合う活動を実施してきた。また児童が「話したい、活動したい」と思えるよう、児童の興味・関心と関連づけた「目的・場面・状況」を設定し、児童の内発的動機づけを高められるよう工夫した。その結果、6年生が受検したGTEC Juniorでは、昨年度に比べて、「話す力」が2.2ポイント向上した。

聞く力においてはGTEC Junior グレード4を取ることができたが、その他3技能(読む力・話す力・書く力)においてはJunior グレード3に留まった。この結果から4技能をバランス良く育成していくことが課題と言える。

5. 課題の改善のための取組の方向性

バランス良く4技能を育成するために、自分の本当の気持ちについて既習事項を用いながら行う「Small Talk」と「目的・場面・状況」を明確にした言語活動を来年度も継続して行っていきたい。読む力、書く力においては、音と文字のルールを取り入れた読み書きの指導を実施する。また聞いたり話したりして慣れ親しんだ表現で書かれた文章を読み、必要な内容を読み取る活動等を取り入れていきたい。

